



地域支援センター「みみらんど・郡山」

平成29年度 きこえとことばの基本研修会



第1回「補聴器・人工内耳・デジタル無線補聴システムについて」

7月5日(水)、第1回きこえとことばの基本研修会が行われ、石垣太郎教諭による「補聴器のしくみ」や「人工内耳・デジタル無線補聴システムについて」の講話がありました。



難聴とは：「音の振動を脳に送るまでの部位に障がいがあり、音が聞こえにくくなる状態」

健聴の聞こえ：周りの音を意識しつつ聴きたい音源に集中することができる。

難聴の聞こえ：音を大きくしても、聞こえにくさが解消できるとは言えない。



オーディオグラムの活用

○オーディオグラムに記入されている数値は、**聞こえ始めの数値**であり、聞いて内容を理解できる音の大きさではない。

○聞こえにくい音は何かを確認できる。

(会話音声範囲を表すスピーチバナナとの対照)

配慮すべきこと

- ＊耳元に届ける音の大きさ
- ＊聞こえの特性を知り、分ける環境づくり(文字の提示等)

補聴器は・・・

★音を大きくして耳に届ける器械

聞こえ：裸耳＋補聴器の出力



人工内耳は・・・

★音を大きくする道具ではなく、音を電気に変えて信号を送る人工臓器

聞こえ：Tレベル(人工内耳が作動する音)とCレベル(聞こえの感度)で調整



補聴器・人工内耳・デジタル無線補聴システムを便利な道具にするための工夫・環境

- 1 騒音の少ないところ
- 2 一対一で話す(1～2m位くらいの距離で)
- 3 口元が見えるようにする
- 4 はっきり、ゆっくりと話す
- 5 表情や身振りで視覚的に補助をする
- 6 簡潔に話す

話の内容が理解できるように！！



<参加者の感想>

○難聴児は、補聴器や人工内耳をつけても健聴児と聞こえ方が違うため、聞きやすい環境を整えることが大切だと改めて認識できました。

○人工内耳のマッピングについて、分かりやすい説明でとても参考になりました。